福井の文化をきり拓く　Fukui Art Culture Forum

Fukui+art
FUKKart

ふっか～と
2010.12
Vol.34

「FUKKart（ふっか～と）」は福井市文化会館を拠点に活動するNPO法人福井芸術・文化フォーラム発行の文化誌です。

落語特集　桂 平治インタヴュー

NHK連続テレビ小説『ちりとてちん』の舞台になった福井の人に、

是非“生”の落語を聴いてほしい！

2009年度芸術祭新人賞受賞。2010年10月からは出身地大分県宇佐市の観光大使も務められている桂平治師匠。
小さい頃から時代劇や和服が好きで、今日も着物に帽子といういでたち。
『能楽堂落語会』終了後インタヴューさせていただきました。言葉の端々に「てんで～」「なんて～と～」など江戸っ子言葉が飛び出し、会話をしていても落語の延長のような、終始笑いの絶えない楽屋。平治師匠の人柄に迫りました。（聞き手：事務局　杉町）

――まずは、本日の「能楽堂落語会」について伺いました。
能楽堂のような場所でこれまでも何度かやったことはありますが、今回は正面にお客さんを集めていただいてよかったですね。
以前やったときなんかは横からも見られて、落ち着かなかったです。
座布団をどっちにおくかなんて揉めたんですが、やっぱり今回のように、正面に置くのが一番いい。

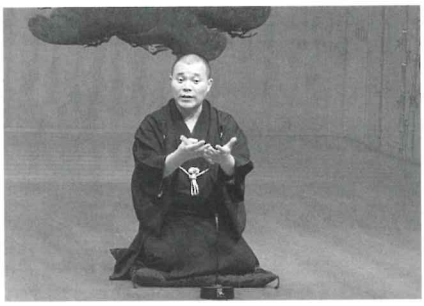
――体験コーナー(注1)についてはいかがだったでしょう。
私も舞台袖で見せていただきました。
子どもさんはよくあるんですが、大人の方は珍しいですね。
今日の体験で舞台に上がった女性の方は、この間の『ふくい女性落語大会』で特別賞をもらったって。好きなんですねぇ。
お蕎麦とうどんの食べ方の違いを質問されていましたが、違いなんかは（柳家）小さん師匠が一番上手いですからDVDとか見てもらえればわかりますかね。

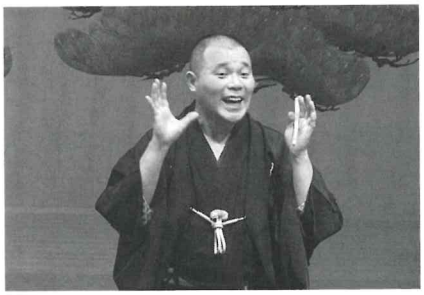
――落語にはネタ（本編）に入る前に「まくら」という小噺がありますが、「まくら」は毎回変更されるのでしょうか。
自分のブームみたいなものがあって、今日はこのまくらをやってみようとか、その時でなきゃ使えない話とかありますね。落語の中にも時事ネタなどを織り交ぜるのは自分の遊びとして入れるんです。

今回の落語でも、菅首相やスタッフの名前が登場しました。そのような“遊び”は特に練習などしなくても、自然と出てくるのだとか。

――『能楽堂落語会』でのネタは『親子酒』。今日のネタを決めた理由はなんだったのでしょう。また、九州出身でお酒が出てくる話が得意な平治師匠。ご自身もお酒は強いのでしょうか。
今日は、染左さんの様子も見て、自分の体調もあったりして。片方は“わ～”と陽気に大阪らしい聴かせる噺で、自分は動作が多くて目でも楽しめる噺にしたんです。
僕自身はお酒はあんまり飲まない方なんです。九州の人はみんな飲めるように言われますけど、飲めない人もいるんですよ。
噺家だからお酒飲めるだろうってのも言われますが、噺家だって今の若い人では（お酒を飲むのは）半々ぐらいかもしれないです。
お酒のネタは飲めない人のほうが上手（うま）いなんてよく言うんですが、ホントかウソか。まあ、酔っ払いを見てるから。酔っている本人は今どういう形になってるか自分で訳わかんなくなっちゃうんでね。

――地方公演も数多くこなされている平治師匠、移動時間や空き時間は何をされているのでしょう。
朝早いと寝てるか、あとまぁ、本を読んだり。
今日もちょっと時間があるんで、しばらくやっていない噺をこうやって（自筆のネタ帳を広げて）さらってみたり。噺家はみんなやってるんじゃないですか。





――平治師匠は寄席文字(注2)もご自身で書かれます。
『笑点』のカレンダーを見て、見よう見まねで。噺家になる人は大体好きなんじゃないですか。落語やり始めたら、今度は字。そして、落語に関するものを集めたり。

――話すことがお仕事の噺家さん。平治師匠は普段からおしゃべりなのでしょうか。また、噺家さんはお客様がちゃんと見えているといいますが緊張されないのでしょうか。
えぇ、僕は普段からおしゃべりですね。
でも、噺家の中にはそうでない人も多いですよ。高座は別ですけどね。高座では面白いのに、楽屋では大人しい人なんかもいます。
落語だとか寄席の演芸の場合は、高座と客席の照明を同じ明るさにするんですよ。
ですからお客さんもちゃんと見えます。
お客さんの顔が見えたり、いろんなことがわかったほうが、それがネタになったりしますからね。

――昨年度、今回とフォーラムの事業で福井に来ていただきましたが、福井の印象はどうでしょう。
他の県と比べて違いはあるのでしょうか。
県によって特色があります。
福井にはこれまで7、8回は来ていると思いますが、印象としてまじめな人が多いですね。まじめに落語を聴いてくれます。

――3月には『いこさ寄席』にも出演していただきますが、福井の皆様にメッセージをお願いします。
福井は『ちりとてちん』の舞台になって、今ではいろんなところで落語をやっています。
聴いてみてあぁ合わないなんていう人はしょうがないですが、是非とも1回だけでも“生”の落語を聴いてみてください。
常連の方は落語のよさはわかっていると思いますので、初心者、初めての方にも聴いてもらいたいですね。

――ありがとうございました。
3月の公演も楽しみにしています。

12月に行われた『能楽堂落語会～平治・染左のなるほど落語講座＆高座～』の落語講座では、東西の落語の違いを普段の生活の中の違いなども織り交ぜて話してくださいました。例えば、帯の結び方ひとつとっても、江戸落語の桂平治師匠は結び目が左、一方、上方（関西）落語の林家染左師匠は結び目が右と違いがあります。それらの違いは落語が生まれた時代背景や文化が影響しているのです。
3月には福井市文化会館にてこの日限りの顔ぶれで『第9回芸文いこさ寄席』を開催。
個性ある噺家が一堂に会するこの機会を是非お見逃しなく。

注1：扇子や手ぬぐいを使って、お蕎麦やうどんの食べ方、お酒の飲み方などを染左師匠が直接指導。この日来場されたお客様3名が舞台に上がりました。
注2：落語の看板やめくり、番付、ビラや千社札に使用される。客を寄せるための書体で、客が集まるよう縁起をかついで字が詰まり加減になっているのが特徴。

桂 平治 PROFILE

大分県出身。小学校の頃から落語家に憧れ、高校卒業後10代目桂文治に入門。
1990年6月二ツ目昇進、2代目平治となる。
1999年5月真打昇進。
古典落語正統派として高い評価を受ける。
酒が出てくる噺「らくだ」「禁酒番屋」や滑稽話を得意とする。
フォーラムの事業ではこれまでに出前寄席（2009年）、『能楽堂落語会～平治・染左のなるほど落語講座＆高座～』（2010年）に出演。
著書に『落語のひみつ』（芸術新聞社発行）がある。

公演情報

第9回 芸文いこさ寄席

日時：2011年3月13日（日）
午後2時開演（午後1時開場）
座席：全席指定
一般前売 3,200円／一般当日 3,700円
学生前売 1,000円／学生当日 1,500円
（学生券はフォーラム事務所のみで販売・当日学生証提示）
一般発売日：2010年11月26日（金）

出演：三遊亭円楽
桂平治
柳家喬太郎
桂春蝶
桧山うめ吉（俗曲）

●ロビーにてお茶とお団子の販売をいたします。
●着物でご来場の方にお茶のサービス、当日でも前売料金でご入場いただけます。

主催・お問い合わせ
NPO法人福井芸術・文化フォーラム
電　話　0776-23-6905
開所時間　月～金 10:00～18:00／土日祝 休

REPORT 01

出前寄席開催

福井芸術・文化フォーラムでは、地域へのアウトリーチ（芸術普及活動）として、「出前寄席」を2002年より開催しています。公民館や町内会等の方々と一緒につくる落語会。身近な場所でプロの話芸に触れることができる機会として、遠方に足を運ぶことが難しいお年寄りらをはじめとして多くの方に好評をいただいています。今年は上方の林家染左師匠が出演。12月3日（金）・4日（土）の2日間で、福井市内の4会場を訪れました。ここでは、最初の会場「清水南公民館」の様子をレポートします。

開演3時間前

会場入り。

さっそく仕込み開始。実は観葉植物用のプランターと板を使っているのです。

赤い毛氈をかぶせて、
高座のできあがり。

音響・照明も仕込んで…

高座から客席を見た図。

開演を待つ満席のお客様。

たっぷり1時間の上演。

終演30分後

あっという間に片付け完了。
また次の会場に向け出発します。

今回は、このほか、東藤島公民館、六条公民館、鮎川会館に落語をお届けしました。

PICK UP　注目の公演情報

月刊ASOBI座　2011年1月～3月のラインナップ

月刊ASOBI座とは…毎月1回、アーティストとの交流、新たな表現との出会いなど、「交流」をテーマに、お客様に舞台をもっと身近に感じていただけるような企画をお届けしています

1月　芸文講座「曽根崎心中から見えてくる江戸時代の人々の生き様」

近松門左衛門は、世話物と言われる浄瑠璃の作品に「心中」を扱った話が多数あります。その「心中物」が大入りとなったのはなぜか。直近の事件のネタを扱って近松は何を描きたかったのでしょうか。その核心に迫ります。2010年11月より開講している舞台芸術講座「曽根崎心中を読む／演る」の関連企画として開催します。

日　時：1月29日(土)13:30～15:00
会　場：福井市文化会館大会議室
参加費：無料
プレゼンター：前田耕一

人形劇団とんと代表。福井県越前市を拠点に、北陸地方の幼稚園・保育園をはじめとして、全国各地で年間約200ステージの公演を行う。福井芸術・文化フォーラム副理事長。

2月　芸文講座「芸術・文化活動と知的財産権の基礎知識および最近の話題から」

芸術・文化を鑑賞する人、職業として関わる人、ホール関係者が知的財産権各権を有効活用する方策について、長年の体験を交えながら講じます。各種楽器や、座席の自動並び替え装置等の特許、芸名と商標権、ものまねや替え歌をする場合に心掛けるべきこと等々。併せてNPO法人や各種団体における調査研究業務や広報業務の重要性についても触れます。

日　時：2月20日(日)14:00～15:30
会　場：福井市文化会館第3会議室
参加費：無料
講　師：山下 博

NPO法人福井県発明くふう研究会副理事長（ファウンダー）、福井芸術・文化フォーラム理事（広報部会）、大阪観光大学観光学研究所客員研究員。著書『やさしい電子特許出願の実務』(オーエス出版)ほか。“街の発明家”としてはレアケースの特許、実用新案、意匠登録9件の実績。
NHK教育テレビ「あすの経営」リポーター出演。

3月　「曽根崎心中を読む／演る」成果発表会

講座参加者による成果発表会です。読みを中心としたパフォーマンスをお届けします。近松門左衛門の名作「曽根崎心中」のセリフが、現代に生きる私たちに向け立体的に立ち上がります。どうぞご期待ください。

日時：3月20日(日)

各催しの詳細については福井芸術・文化フォーラムまでお問い合わせください。
電話 0776-23-6905
※上記は2010年12月30日現在の情報です。内容等が変更になる場合がございます。

AE

REPORT
02 子どもたちに芸術を届ける

福井芸術・文化フォーラムではこの秋もたくさんの催しを行いました。
「Art in Education ～日本の音～」（AE）では15の小中学校に箏・尺八の専門家を派遣。箏では『さくらさくら』の演奏、尺八は音を出すことをメインに体験し、古典曲から現代曲まで講師による実演を鑑賞しました。
委託事業（福井市主催）の中学校鑑賞教室では市内21校の中学2年生約2,400名を対象に、日本伝統芸能である“能”“狂言”の体験・鑑賞、幼児演劇鑑賞教室では114園約2,300名の園児が人形劇作品を鑑賞しました。
AEや鑑賞教室で感じるのは、目の前の芸術に対する子どもたちの真っ直ぐな興味です。そして、そこにある素直な感性に驚き、芸術と向き合う真剣さに教えられます。
これらの経験は彼ら彼女らの心に残り、これからの生活に彩りを添えることでしょう。

中学校鑑賞教室

幼児演劇鑑賞教室

EVENT SCHEDULE　イベントスケジュール　1月▶3月

1/29（土）	月刊ASOBI座 シリーズ7 芸文講座「曽根崎心中から見えてくる江戸時代の人々の生き様」	3ページ参照
2/20（日）	月刊ASOBI座 シリーズ8 芸文講座「芸術・文化活動と知的財産権の基礎知識および最近の話題から」	3ページ参照
3/13（日）	第9回芸文いこさ寄席	2ページ参照
3/20（日）	月刊ASOBI座 シリーズ9 「曽根崎心中を読む／演る」成果発表会	3ページ参照

※公演等の詳しい情報についてはお問い合わせいただくか、Webをご覧ください。　※上記は2010年12月30日現在の情報です。変更および追加となる場合があります。

FUKKART 舞台の裏から 3 ARTIST ESSAY

日本舞踊の舞台のその効果

恵会主宰　藤間勢恵

日本舞踊は寛政時代に歌舞伎から派生したと云われている。日本舞踊の舞台は演者（立方）の技量はもちろん、いろんな分野の協力により成り立っている。

第1に大道具（背景）・小道具・照明・狂言方・後見方、直接本人にかかわっている衣装・かつら・美粧（顔師）。後見方は、紋付袴姿で、小道具の受け渡し、又踊っている本人の衣装から、玉付きの糸十六本程を手際よくぬきとり“パッ”と一瞬にして衣装が変わる「引きぬき」は見事である。観客から、歓声や拍手が沸きおこる。

踊りが「立方」に対し、唄・三味線・お囃子の「地方」は、大曲になると、舞台の後方で雛壇2列に、上段が唄三味線、下段がお囃子とずらりと並び、その前で立方が踊る。それは、豪華なものである。代表的な曲では「京鹿の子嬢道成寺」「船辯慶」「連獅子」等がある。狂言方は舞台全体を仕切っている。幕の上げ下げにも“タイミング”があり大変むつかしく、早くても余韻が残らず、遅くても間がぬけてしまう。

こうして総合した蔭の力により、よい舞台が出来上がるのである。

編集後記

■常に市民に何を提供するかを考えながらフォーラムは進みます（K.M）

■来福の文化庁文化部長のKさん（放送大学修士課程修了者でも）と地方での文化行政などについて話し合った（内容は割愛）。（特活）アートNPOリンクのことは同庁から助成金を得たこともあり、よくご存知だった。あるいは女性文部官僚の先輩であられる遠山敦子元・文科相（現・新国立劇場運営財団理事長）について、35年前に『学際』誌の同じ号での寄稿（遠山さんは座談会）と書簡のやり取りをしたご縁等を話し喜んでいただけたのは嬉しい限り。（H.Y）

福井芸術・文化フォーラムの活動を応援しています（2010年度法人賛助会員）

北陸労働金庫
財団法人 福井県予防医学協会
ホテルリバージュアケボノ
エースイン福井　（12月現在）

発行・お問い合わせ

NPO法人
福井芸術・文化フォーラム

〒910-0019　福井市春山2-7-1　福井市文化会館内
TEL 0776-23-6905　FAX 0776-23-7905　開所時間 月～金 10:00～18:00／土日祝 休
Email geibun@geibun.info　URL http://geibun.info/

■福井芸術・文化フォーラムはだれでも参加できる市民の団体です。
■ご意見・ご感想・ご要望は、メールまたはFAXでフォーラムまでお気軽にお寄せください。

2010年12月30日発行　通巻34号